

問題 1

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

問題 2

問 1

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

問 2

		製品との関連における分類	
		直接費	間接費
形態別分類	( )	( )	( )
	( )	( )	( )
	( )	( )	( )

問題 3

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				

問題 4

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				

問題 5

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				

問題 6

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
問1				
問2				
問3				

問題 7

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

問題 8

問1 主要材料費

(A) 先入先出法の場合  円

(B) 移動平均法の場合  円

問2 買入部品費  円

問3 工場消耗品費  円

問題 9

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				

問題 10

材 料		(単位：円)
月初有高 ( )	仕掛品 ( )	
買掛金 ( )	製造間接費 ( )	
	製造間接費 ( )	
	営業外費用 ( )	
	月末有高 ( )	
		<u>( )</u>

仕 掛 品		(単位：円)
-------	--	--------

材 料 ( )	
---------	--

製造間接費		(単位：円)
-------	--	--------

材 料 ( )	
材 料 ( )	

営業外費用		(単位：円)
-------	--	--------

材 料 ( )	
---------	--

問題 11

材 料		(単位：円)
月初有高 ( )	仕掛品 ( )	
買掛金 ( )	製造間接費 ( )	
	材料消費価格差異 ( )	
	月末有高 ( )	
		<u>( )</u>

仕 掛 品		(単位：円)
-------	--	--------

材 料 ( )	
---------	--

製造間接費		(単位：円)
-------	--	--------

材 料 ( )	
---------	--

材料消費価格差異		(単位：円)
----------	--	--------

材 料 ( )	
---------	--

問題 12

材 料		(単位：円)
月初有高	( )	仕掛品 ( )
買掛金	( )	製造間接費 ( )
		月末有高 ( )
	( )	( )

仕 掛 品		(単位：円)
材 料	( )	

製 造 間 接 費		(単位：円)
材 料	( )	

材 料 受 入 価 格 差 異		(単位：円)
買 掛 金	( )	

問題 13

焼失した直接材料 T の数量  kg

問題 14

問 1 (単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				

問 2 (単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				

問題 15

	賃 金	
当月支給額 (            )	前月未払 (            )	(単位：円)
当月未払 (            )	仕掛品 (            )	
/	製造間接費 (            )	
(            )	(            )	

問題 16

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				

問題 17

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				

問題 18

問 1

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

問 2

賃 金 (単位：円)

当月支給額 ( )	前月未払 ( )
当月未払 ( )	仕掛品 ( )
	製造間接費 ( )
	賃率差異 ( )
( )	( )

未払賃金 (単位：円)

賃 金 ( )	前月繰越 ( )
次月繰越 ( )	賃 金 ( )
( )	( )

問題 19

賃 金 (単位：円)	
当月支給額 ( )	前月未払 ( )
当月未払 ( )	仕掛品 ( )
賃率差異 ( )	製造間接費 ( )
( )	( )

未払賃金 (単位：円)	
賃 金 ( )	前月繰越 ( )
次月繰越 ( )	賃 金 ( )
( )	( )

仕 掛 品 (単位：円)	
賃 金 ( )	

賃率差異 (単位：円)	
	賃 金 ( )

問題 20

間接労務費：  円

問題 21

(単位：円)				
	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				
⑤				

問題 22

問 1 (単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				

買掛金	外注加工賃	( )
	材 料	

問 2 (単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				

買掛金	外注加工賃	( )
	材 料	

問 3

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				
⑤				

材 料	売 掛 金	部 品
買 掛 金	(            )	現 金

問題 23

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				

問題 24

問1

製造間接費		(単位：円)
間接材料費 ( )	仕掛品 ( )	
間接労務費 ( )	〔            〕差異 ( )	
間接経費 ( )	/	
〔            〕差異 ( )		
( )	( )	

(注) 〔    〕には適切な語句を記入すること。

問2

仕掛品		(単位：円)
月初有高 ( )	製品 ( )	
直接材料費 ( )	月末有高 ( )	
直接労務費 ( )	/	
直接経費 ( )		
製造間接費 ( )		
( )	( )	

問3

販売費および一般管理費  円

問4

営業利益  円

問題 25

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				

問題 26

指図書別原価計算表

(単位：円)

	#10	#20	#30
前月繰越額			
当月製造費用			
直接材料費			
直接労務費			
製造間接費			
合計			
備考			

仕掛品

(単位：円)

前月繰越 ( )	製 品 ( )
材 料 ( )	次月繰越 ( )
賃 金 ( )	
製造間接費 ( )	
( )	( )

製 品

(単位：円)

仕 掛 品 ( )	
-----------	--

問題 27

指図書別原価計算表 (単位：千円)

	# 301	# 302	# 303
前月繰越額			
当月製造費用			
直接材料費			
直接労務費			
製造間接費			
合計			
備考			

完成品1両あたりの原価 (# 301) :  円

問題 28

製造間接費 (単位：円)

実際発生額 ( )	仕掛品 ( )
	製造間接費配賦差異 ( )
( )	( )

仕掛品 (単位：円)

材料 ( )	製品 ( )
賃金 ( )	次月繰越 ( )
製造間接費 ( )	
( )	( )

問題 29

① 理論的生産能力	時間
② 実際的生産能力	時間
③ 平均操業度	時間
④ 期待実際操業度	時間

問題 30

問1 固定予算を用いた場合

	製造間接費総差異	予算差異	操業度差異
7月	円 ( )	円 ( )	円 ( )
8月	円 ( )	円 ( )	円 ( )

問2 公式法変動予算を用いた場合

	製造間接費総差異	予算差異	操業度差異
7月	円 ( )	円 ( )	円 ( )
8月	円 ( )	円 ( )	円 ( )

(注) ( )内に、有利差異であれば「F」、不利差異であれば「U」と記入しなさい。  
 なお、差異が0の場合は「-」と記入すればよい。

問題 31

① 月間基準操業度	時間
② 予定配賦率	円/時間
③ 当月の予定配賦額	円
④ 予算差異	円
⑤ 操業度差異	円

問題 32

製品Bへの予定配賦額:  円

差異分析:

予算差異	円
操業度差異	円

問題 33

予算差異	円
操業度差異	円

問題 34

正しい意見：

問題 35

(単位：円)

借方科目	金額	貸方科目	金額

問題 36

問1 単一基準・実際配賦

動力部門 (単位：円)

製造間接費	金額	A 製造部門	B 製造部門
3,000,000		( )	( )
	( )		( )

問2 単一基準・予定配賦

動力部門 (単位：円)

製造間接費	金額	A 製造部門	B 製造部門	動力部門費配賦差異
3,000,000		( )	( )	( )
	( )			( )

予算差異  円 (有利差異・不利差異)

操業度差異  円 (有利差異・不利差異)

(注) 有利差異か不利差異かについては、不要な語句を二重線で消すこと。

問題 37

問 1

動 力 部 門		(単位：円)	
製 造 間 接 費	7,200,000	A 製 造 部 門	( )
		B 製 造 部 門	( )
		動力部門費配賦差異	( )
	( )		( )

予 算 差 異  円 (有利差異・不利差異)

操 業 度 差 異  円 (有利差異・不利差異)

(注)有利差異か不利差異かについては、不要な語句を二重線で消すこと。0円の場合はどちらも消すこと。

問 2

動 力 部 門		(単位：円)	
製 造 間 接 費	7,200,000	A 製 造 部 門	( )
動力部門費配賦差異	( )	B 製 造 部 門	( )
	( )		( )

予 算 差 異  円 (有利差異・不利差異)

操 業 度 差 異  円 (有利差異・不利差異)

(注)有利差異か不利差異かについては、不要な語句を二重線で消すこと。0円の場合はどちらも消すこと。

問題 38

(A) 単一基準配賦法・予定配賦

- ① A 製造部に配賦される動力部門費  円
- ② B 製造部に配賦される修繕部門費  円
- ③ A 製造部に配賦される事務部門費  円
- ④ 動力部門の予算差異  円 (有利差異・不利差異)
- ⑤ 動力部門の操業度差異  円 (有利差異・不利差異)

(B) 複数基準配賦法・予算額配賦

- ① B 製造部に配賦される動力部門費  円
- ② A 製造部に配賦される修繕部門費  円
- ③ B 製造部に配賦される事務部門費  円
- ④ 修繕部門の予算差異  円 (有利差異・不利差異)
- ⑤ 修繕部門の操業度差異  円 (有利差異・不利差異)

(注) 有利差異か不利差異かについては、不要な語句を二重線で消すこと。0 円の場合はどちらも消すこと。

問題 39

部門費配賦表 (単位：円)

	切削部門	組立部門	動力部門	倉庫部門	事務部門
部門費	215,000	190,000	140,000	120,000	50,000
第1次配賦					
動力部門費					
倉庫部門費					
事務部門費					
第2次配賦					
動力部門費					
倉庫部門費					
事務部門費					
製造部門費					

倉庫部門 (単位：円)

製造間接費	120,000	切削部門 ( )
動力部門 ( )		組立部門 ( )
事務部門 ( )		動力部門 ( )
( )		( )

問題 40

部門費配賦表

(単位：円)

	製造部門				補助部門				
	甲製造部		乙製造部		動力部門		保全部門		事務部門
	V	F	V	F	V	F	V	F	F
部門費	126,500	212,000	121,500	194,500	92,000	130,000	85,000	103,500	90,000
動力部門費									
保全部門費									
事務部門費									
製造部門費					—	—	—	—	—

(注) Vは変動費を、Fは固定費を表す。

問題 41

部門費配賦表

(単位：円)

	甲製造部	乙製造部	( )部門	( )部門	( )部門
部門費	565,000	510,000			
( )部門費					
( )部門費					
( )部門費					
製造部門費					

動力部門

(単位：円)

製造間接費	320,000	甲製造部	( )
{ ( ) ( )		乙製造部	( )
{ ( ) ( )		{ ( ) ( )	( )
		{ ( ) ( )	( )
	( )		( )

(注) 全ての空欄が埋まるとは限らない。

問題 42

部門費配賦表

(単位：円)

	製造部門				補助部門				管理部門
	A製造部		B製造部		( )部門		( )部門		
	V	F	V	F	V	F	V	F	
部門費	135,200	119,200	116,800	102,800					80,000
管理部門費									
( )部門費									
( )部門費									
製造部門費									

(注) Vは変動費を、Fは固定費を表す。

電力部門

(単位：円)

製造間接費	226,000	A製造部	( )
管理部門	( )	B製造部	( )
{	( )	{	( )
	( )		( )

(注) 全ての空欄が埋まるとは限らない。

問題 43

指図書別原価計算表

(単位：円)

	# 10	# 20	# 30	合計
直接材料費				
直接労務費				
製造間接費				
切削部門				
組立部門				
製造原価				
備考				

切 削 部 門		(単位：円)
製造間接費	22,500	{ ( )
動力部門	( )	/ ( )
	( )	

問題 44

問 1

指図書別原価計算表					(単位：円)
摘 要	# 101	# 201	# 301	合 計	
月初仕掛品原価					
直接材料費					
直接労務費					
製造間接費					
甲製造部					
乙製造部					
製造原価					
備 考					

甲 製 造 部		(単位：円)
製造間接費	354,500	仕 掛 品 ( )
動力部門	( )	操 業 度 差 異 ( )
事務部門	( )	/ ( )
予算差異	( )	
	( )	

動 力 部 門		(単位：円)
製造間接費	232,500	甲 製 造 部 ( )
事務部門	( )	乙 製 造 部 ( )
	/ ( )	予 算 差 異 ( )
		( )

問 2

①		②	
③		④	

問題 45

当月の仕損費  円

問題 46

問 1

正常仕損費  円

完成品原価  円

問 2

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

問題 47

指図書別原価計算表

(単位：円)

	#100	#200	#300	#100 - 1	#200 - 1	#300 - 1
直接材料費	52,000	30,000	74,000	21,500	1,800	74,000
直接労務費	49,500	28,500	64,300	18,400	7,200	69,000
製造間接費	31,400	20,200	59,200	13,000	6,300	60,500
合計	132,900	78,700	197,500	52,900	15,300	203,500
仕損品 評価額						
仕損費						
製造原価						
備考						

問題 48

指図書別原価計算表

(単位：円)

	#10	#10 - 1	#20	#20 - 1
月初仕掛品原価				
当月製造費用				
直接材料費				
直接労務費				
製造間接費				
合 計				
仕 損 費				
製 造 原 価				
備 考				

仕 掛 品

(単位：円)

前月繰越 ( )	製 品 ( )
材 料 ( )	損 益 ( )
賃 金 ( )	次月繰越 ( )
製造間接費 ( )	
( )	( )

問題 49

指図書別原価計算表

(単位：円)

	# 81	# 82	# 83	# 84	# 85	# 86
月初仕掛品						
直接材料費						
直接労務費						
製造間接費						
切削部門						
組立部門						
合計						
仕損品評価額						
仕損費						
製造原価						
備考						

仕掛品

(単位：円)

前月繰越 ( )	製品 ( )
材料 ( )	製造間接費 ( )
賃金 ( )	損益 ( )
製造間接費 ( )	評価額 ( )
	次月繰越 ( )
( )	( )

問題 50

# 10 に集計される製造原価：  円

# 20 に集計される製造原価：  円

当工場は 2 つの製造部門と 2 つの補助部門を持っている。補助部門費は複数基準配賦法と直接配賦法を用いて各製造部(甲製造部と乙製造部)に配賦している。乙製造部では個別原価計算を行っている。下記の【資料】にもとづいて、次の問に答えなさい。

問 1 解答用紙の指図書別原価計算表を完成しなさい。

問 2 当月の操業度差異を計算しなさい。ただし、固定費率を用いて計算すること。

【資料】

I 乙製造部に関する資料

(1) 当月の生産活動は、以下のとおりであった。

(ア) 製造指図書 # 101 にもとづき製品を 200 個生産した。最終検査により仕損品が 10 個確認されたので、補修指図書 # 101 - 1 を発行して仕損品の補修を行った。仕損費は当該指図書に賦課する。

(イ) 製造指図書 # 102 にもとづき製品を 750 個生産した。最終検査により仕損品が 50 個確認されたが、補修不能のため代品製作指図書 # 102 - 1 を発行して代品を生産した。仕損品は 1 個 110 円で売却可能である。仕損費は当該指図書に賦課する。

(ウ) 製造指図書 # 103 にもとづき製品を 500 個生産した。

(2) 乙製造部は主要設備 2 台からなり、1 日 3 交代制で 24 時間操業している。年間作業可能日数は 280 日であるが、設備保全等のために生じる不可避免的な休業休止時間が各設備につきそれぞれ年間 720 時間ある。

(3) 直接工の消費賃率は作業時間当たり 800 円である。なお、直接作業時間は機械作業時間(機械運転時間)に等しいものとする。

(4) 製造間接費は、主要設備別に設定した 2 つの原価部門(C D 1 と C D 2)に集計し、部門別配賦率を用いて機械作業時間基準で予定配賦している。予定配賦率は実際の生産能力にもとづいて設定している。

(5) 各原価部門の補助部門費配賦前の製造間接費予算(月額)は、次のとおりである。なお、製造間接費予算には仕損費予算は含まれていない。

C D 1	変動費	135,200 円、	固定費	85,350 円、	合計	220,550 円
C D 2	変動費	98,000 円、	固定費	78,500 円、	合計	176,500 円

II 補助部門に関する資料

(1) 各補助部門費予算(月額)

A 補助部門	変動費	144,000 円、	固定費	100,000 円、	合計	244,000 円
B 補助部門	変動費	76,800 円、	固定費	83,300 円、	合計	160,100 円

(2) 各補助部門用役の当月消費予定量の割合(ただし、かっこ内の%は消費能力の割合)

	甲製造部	乙製造部		A 補助部門	B 補助部門
		C D 1	C D 2		
A 補助部門用役	40% (35%)	25% (25%)	25% (20%)	—	10% (20%)
B 補助部門用役	25% (30%)	30% (30%)	25% (25%)	20% (15%)	—



**解答用紙**

問 1

(単位：円)

	# 101	# 101 - 1	# 102	# 102 - 1	# 103	計
直接材料費	120,600	9,300	217,900	42,200	164,200	554,200
直接労務費						
製造間接費						
合計						
仕損品評価額	—	—	—		—	
正常仕損費					—	0
製造原価		0		0		
実際機械作業時間						
CD 1	100 時間	0 時間	210 時間	60 時間	120 時間	
CD 2	80 時間	15 時間	220 時間	35 時間	135 時間	

問 2

	CD 1	CD 2
操業度差異	円 ( )	円 ( )

(注) ( ) 内に、有利差異であれば「F」、不利差異であれば「U」と記入しなさい。  
 なお、差異が0の場合は「—」と記入すればよい。



## 解 答

問 1

(単位：円)

	# 101	# 101-1	# 102	# 102-1	# 103	計
直接材料費	120,600	9,300	217,900	42,200	164,200	554,200
直接労務費	<b>144,000</b>	<b>12,000</b>	<b>344,000</b>	<b>76,000</b>	<b>204,000</b>	<b>780,000</b>
製造間接費	<b>116,400</b>	<b>8,700</b>	<b>274,600</b>	<b>62,300</b>	<b>162,300</b>	<b>624,300</b>
合計	<b>381,000</b>	<b>30,000</b>	<b>836,500</b>	<b>180,500</b>	<b>530,500</b>	<b>1,958,500</b>
仕損品評価額	－	－	－	△ 5,500	－	△ 5,500
正常仕損費	<b>30,000</b>	△ 30,000	<b>175,000</b>	△ 175,000	－	0
製造原価	<b>411,000</b>	0	<b>1,011,500</b>	0	<b>530,500</b>	<b>1,953,000</b>
実際機械作業時間						
CD 1	100 時間	0 時間	210 時間	60 時間	120 時間	
CD 2	80 時間	15 時間	220 時間	35 時間	135 時間	

問 2

	CD 1	CD 2
操業度差異	<b>2,920 円 (U)</b>	<b>3,840 円 (U)</b>

(注) ( ) 内に、有利差異であれば「F」、不利差異であれば「U」と記入しなさい。  
 なお、差異が0の場合は「－」と記入すればよい。

## 解 説

本問は部門別個別原価計算の問題です。補助部門費の配賦、製造間接費の配賦、そして仕損費の処理がポイントとなります。乙製造部門の2つの原価部門(CD1とCD2)の予定配賦率の計算が特に重要になります。

### 1. 直接労務費の計算

$$\begin{aligned}
 \# 101 & : @ 800 \text{ 円} \times (100 \text{ 時間} + 80 \text{ 時間}) = \mathbf{144,000 \text{ 円}} \\
 \# 101-1 & : @ 800 \text{ 円} \times (0 \text{ 時間} + 15 \text{ 時間}) = \mathbf{12,000 \text{ 円}} \\
 \# 102 & : @ 800 \text{ 円} \times (210 \text{ 時間} + 220 \text{ 時間}) = \mathbf{344,000 \text{ 円}} \\
 \# 102-1 & : @ 800 \text{ 円} \times (60 \text{ 時間} + 35 \text{ 時間}) = \mathbf{76,000 \text{ 円}} \\
 \# 103 & : @ 800 \text{ 円} \times (120 \text{ 時間} + 135 \text{ 時間}) = \mathbf{204,000 \text{ 円}} \\
 \hline
 \text{合計} & : \mathbf{780,000 \text{ 円}}
 \end{aligned}$$

### 2. 製造間接費の計算

乙製造部の主要設備は、【資料】I(4)の「主要設備別に設定した2つの原価部門(CD1とCD2)」という表現から、CD1とCD2から構成されていることがわかります。その2つの設備ごとに製造間接費の配賦計算を行います。

(1) 実際の生産能力の算定

本問では、製造間接費の予算が月額で与えられていることから、実際の生産能力である機械作業時間も1ヵ月あたりの時間を求める必要があります。

主要設備1台当たりの機械作業時間(実際の生産能力)：

$$(24 \text{ 時間/日} \times 280 \text{ 日} - \underbrace{720 \text{ 時間}}_{\text{不可避的な休業休止時間}}) \div 12 \text{ ヵ月} = 500 \text{ 時間}$$

(2) 補助部門費の配賦～複数基準配賦法・直接配賦法～

補助部門費は問題文の指示に従って、複数基準配賦法・直接配賦法により配賦計算を行います。なお、甲製造部への配賦額については本問の解答に関係ないため、計算する必要はありません。ただし、甲製造部にも補助部門費が配賦されるため、甲製造部の消費量も含めて計算する点に注意しましょう。

① A 補助部門・変動費の配賦

$$\text{乙製造部 C D 1} : 144,000 \text{ 円} \div (40\% + 25\% + 25\%) \times 25\% = 40,000 \text{ 円}$$

$$\text{乙製造部 C D 2} : 144,000 \text{ 円} \div (40\% + 25\% + 25\%) \times 25\% = 40,000 \text{ 円}$$

② A 補助部門・固定費の配賦

$$\text{乙製造部 C D 1} : 100,000 \text{ 円} \div (35\% + 25\% + 20\%) \times 25\% = 31,250 \text{ 円}$$

$$\text{乙製造部 C D 2} : 100,000 \text{ 円} \div (35\% + 25\% + 20\%) \times 20\% = 25,000 \text{ 円}$$

③ B 補助部門・変動費の配賦

$$\text{乙製造部 C D 1} : 76,800 \text{ 円} \div (25\% + 30\% + 25\%) \times 30\% = 28,800 \text{ 円}$$

$$\text{乙製造部 C D 2} : 76,800 \text{ 円} \div (25\% + 30\% + 25\%) \times 25\% = 24,000 \text{ 円}$$

④ B 補助部門・固定費の配賦

$$\text{乙製造部 C D 1} : 83,300 \text{ 円} \div (30\% + 30\% + 25\%) \times 30\% = 29,400 \text{ 円}$$

$$\text{乙製造部 C D 2} : 83,300 \text{ 円} \div (30\% + 30\% + 25\%) \times 25\% = 24,500 \text{ 円}$$

以上の計算を補助部門費配賦表にすると、次のようになります。

摘 要	乙 製 造 部				A 補 助 部 門		B 補 助 部 門	
	C D 1		C D 2		V	F	V	F
	V	F	V	F				
部 門 費	135,200	85,350	98,000	78,500	144,000	100,000	76,800	83,300
A 補 助 部 門 費	40,000	31,250	40,000	25,000	V : 変動費 F : 固定費			
B 補 助 部 門 費	28,800	29,400	24,000	24,500				
合 計	204,000	146,000	162,000	128,000				

(3) 予定配賦率の計算

(2)で求めたC D 1・C D 2それぞれの補助部門費配賦後の部門費から、予定配賦率を求めます。

① C D 1 の予定配賦率

$$\text{変動費率} : 204,000 \text{ 円} \div 500 \text{ 時間} = @ 408 \text{ 円}$$

$$\text{固定費率} : 146,000 \text{ 円} \div 500 \text{ 時間} = @ 292 \text{ 円}$$

$$\text{合計} : @ 700 \text{ 円}$$

② C D 2 の予定配賦率

$$\text{変動費率} : 162,000 \text{ 円} \div 500 \text{ 時間} = @ 324 \text{ 円}$$

$$\text{固定費率} : 128,000 \text{ 円} \div 500 \text{ 時間} = @ 256 \text{ 円}$$

$$\text{合計} : @ 580 \text{ 円}$$

(4)各指図書への予定配賦額

# 101	:	@ 700 円 × 100 時間 + @ 580 円 × 80 時間	=	<b>116,400 円</b>
# 101-1	:	@ 700 円 × 0 時間 + @ 580 円 × 15 時間	=	<b>8,700 円</b>
# 102	:	@ 700 円 × 210 時間 + @ 580 円 × 220 時間	=	<b>274,600 円</b>
# 102-1	:	@ 700 円 × 60 時間 + @ 580 円 × 35 時間	=	<b>62,300 円</b>
# 103	:	@ 700 円 × 120 時間 + @ 580 円 × 135 時間	=	<b>162,300 円</b>
合計 :				<b><u>624,300 円</u></b>

3. 仕損費の計算と処理

(1) 補修指図書発行・正常仕損の場合(# 101 と # 101 - 1)

補修指図書(# 101 - 1)に集計された原価が仕損費となります。製造間接費予算に仕損費の予算が含まれていないことから直接経費として処理する正常仕損費となるため、元の製造指図書(# 101)に直課します。

正常仕損費 : 9,300 円 + 12,000 円 + 8,700 円 = 30,000 円 (# 101 へ直課)

(2) 代品製作指図書発行・正常仕損の場合(# 102 と # 102 - 1)

一部仕損の場合は、代品製作指図書(# 102 - 1)に集計された原価から仕損品の評価額を控除した額が仕損費となります。製造間接費予算に仕損費の予算が含まれていないため、元の製造指図書(# 102)に直課します。

仕損品評価額 : @ 110 円 × 50 個 = **5,500 円**

正常仕損費 : 42,200 円 + 76,000 円 + 62,300 円 -  $\frac{5,500 \text{ 円}}{\text{仕損品評価額}}$  = **175,000 円** (# 102 へ直課)

4. 操業度差異の計算

問題文に「固定費率を用いて計算する」とあることから、公式法変動予算により差異分析を行います。

なお、実際機械作業時間は答案用紙の指図書別原価計算表にある指図書別の実際機械作業時間を合計して求めます。

① CD 1

実際機械作業時間 : 100 時間 + 0 時間 + 210 時間 + 60 時間 + 120 時間 = 490 時間

操業度差異 : @ 292 円 × (490 時間 - 500 時間) = **△ 2,920 円 (不利差異)**

② CD 2

実際機械作業時間 : 80 時間 + 15 時間 + 220 時間 + 35 時間 + 135 時間 = 485 時間

操業度差異 : @ 256 円 × (485 時間 - 500 時間) = **△ 3,840 円 (不利差異)**



